

再評価結果（平成24年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課
担当課長名：三浦 真紀

事業名	一般国道58号 嘉手納バイパス	事業区分	一般国道	事業主体	内閣府 沖縄総合事務局
起終点	自：沖縄県読谷村字古堅 至：沖縄県嘉手納町字兼久			延長	3.2km
事業概要					
<p>沖縄西海岸道路は、国道58号、331号などの交通混雑緩和と那覇空港自動車道、那覇空港、那覇港と西海岸地域の各拠点を連結し、地域の活性化、地域振興プロジェクトに寄与する広域幹線道路で、読谷村から糸満市に至る約50kmの地域高規格道路である。また沖縄西海岸道路は、渋滞の緩和、交通事故抑制、観光支援並びに物流の効率化等を目的に策定されたハシゴ道路計画にも位置づけられている。嘉手納バイパスは、その沖縄西海岸道路の一部を形成し、国道58号の混雑緩和、北部地域と中南部地域の交流促進と地域振興に資する道路で、読谷村字古堅から嘉手納町字兼久に至る延長3.2kmの道路である。</p>					
S62年度事業化		都市計画決定不要		H6年度用地着手	
H14年度工事着手					
全体事業費	286億円	事業進捗率	約9.7%	供用済延長	0km
計画交通量	23,000台/日				
費用対効果分析結果	B/C (事業全体) 1.7 (残事業) 2.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 182/221億円 事業費：166/205億円 維持管理費：16/16億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 377/377億円 走行時間短縮便益：323/323億円 走行経費減少便益：33/33億円 交通事故減少便益：21/21億円	基準年 平成23年	
感度分析の結果					
<p>(事業全体) 交通量：B/C= 1.6~1.8 (交通量 ±10%) (残事業) 交通量：B/C= 1.9~2.2 (交通量 ±10%) 事業費：B/C= 1.6~1.8 (事業費 ±10%) 事業費：B/C= 1.9~2.3 (事業費 ±10%) 事業期間：B/C= 1.5~1.9 (事業期間±20%) 事業期間：B/C= 1.8~2.3 (事業期間±20%)</p>					
事業の効果等					
<p>①円滑なモビリティの確保 ・並行路線である国道58号に集中する交通が分散し、渋滞損失時間が約49%削減。【244万人時間/年→125万人時間/年】 ・那覇空港から読谷村役場までの所要時間が約8%短縮。【71分→65分】（未整備→完成4車線）</p> <p>②物流効率化の支援 ・那覇新港から読谷村役場までの所要時間が約10%短縮。【63分→57分】（未整備→完成4車線）</p> <p>③個性ある地域の形成 ・北谷町（アメリカンビレッジ）から読谷村（座喜味城址）への所要時間が約16%短縮【25分→21分】（未整備→完成4車線）</p> <p>④地球環境の保全 ・CO2排出量が約0.1万t-CO2/年削減（約0.1%）削減【205.0万t-CO2/年→204.9万t-CO2/年】（未整備→完成4車線）</p> <p>⑤生活環境の改善・保全 ・NO2排出量が約37.8t/年削減（約46.9%）削減【80.6t/年→42.8t/年】（未整備→完成4車線） ・SPM排出量が約3.5t/年削減（約46.1%）削減【7.6t/年→4.1t/年】（未整備→完成4車線）</p>					
関係する地方公共団体等の意見					
<p>沖縄西海岸道路は、沖縄本島の道路網の骨格となる地域高規格道路であり、車社会である本県の振興発展に極めて重要な役割を担うものである。現在、延長約50kmの全長の各区分にて鋭意事業が推進されている。</p> <p>嘉手納バイパスは、国道58号の混雑緩和、北部地域と中部地域の交流促進と地域振興に資する道路で読谷村字古堅から嘉手納町字兼久に至る延長3.2kmの道路である。</p> <p>本事業の現状は、現ルートの海上から陸上への変更を視野に入れた地元調整を実施している状況であり、未だにルートが確定していない。</p> <p>あらゆるルートの可能性を探るべく、海上ルートの先線である米軍提供施設（嘉手納飛行場、嘉手納マリナー）内へのバイパス延伸整備について、再度、沖縄防衛局、米軍等の関係者との調整を行っている。</p>					

ルート選定の際に必要な関係者との協議には、時間と事業費が必要である。また、読谷村では、当事業に接続する読谷道路を軸とした基盤整備が進んでおり、本事業との一体的な整備が望まれていることから、ルートを早期に確定させ、事業を進捗させる必要がある。

したがって、対応方針（原案）のとおり事業継続に同意する。

事業評価監視委員会の意見

・対応方針（原案）に対して審議を行った結果、「事業継続」で了承された。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

○嘉手納町のまちづくりに寄与する交通ネットワークを形成する骨格的道路として位置づけ。

→地域の活性化

○現道58号の交通量は5万台/日以上、混雑度は並行区間で高くなっている。 →交通渋滞の緩和

○嘉手納バイパスと並行する区間において、国道58号の渋滞が連続している。 →交通渋滞の緩和

事業の進捗状況、残事業の内容等

・事業進捗率は約9.7%、用地取得率は約83%（平成23年度末見込み）。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

・当面、早期の暫定全線2車供用を目指し、鋭意、関係機関と調整を行う。

施設の構造や工法の変更等

・特になし

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の事業の効果及び進捗状況、関係する地方公共団体等の意見、事業評価監視委員会による審議を踏まえると、事業の必要性、重要性は当初から変わらず、事業を継続する必要があるため。

事業概要図



※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

※ 総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳の合計と一致しないことがある。